1

敵討月双絃

エレキテル風の活

細篇の独り芝居

三升花菊作

(SM印　A…1)　10…20

2

かぬ足、そうで藤吉台のところにも迫ついたが、ちよいと俥んで御都の嬢子に耳をすますと、馴れた手つきで雨戸を一枚そっと引いた。

新蔵自身もそれと鍵をかけずに置いたか、それとも下女の中の狸のいたずらに開けられて居るかも知れぬ。そこらの土間は空錠が下りたままに

さあれおすすめする。

スッと影のやうに入口にはいる。抜

の間に足を踏み掛けそっと、ミチりと鞭んだ。

「新蔵さんかい？」と、寝ぼ

「おれおねえ？」

松屋製